

岡山県 赤磐市旧吉井町 &amp; 岡山市旧御津町

0706futsu00.htm by Mutsu Nakanishi 2007. 3. 15.



## 【 内 容 】

1. 旧吉井町仁堀 より 石上へ 中国山地の山間を Walk
2. 「石上」 石上布都魂神社
3. 石上布都魂神社から 南へ 旭川水系の御津町 金山へ

岡山県東部 吉井川と旭川にはさまれた山また山の真ん中に物部氏と関係の深い「石上布都魂神社」がある。スサノオノミコトが退治したヤマタノオロチの中から出てきた草薙ノ剣が奉納されたところといい、また 物部氏の根拠地 大和布留の石上神宮の元宮といわれる。 背後の旭川水系・吉井川水系の中国山地は 古代吉備の大製鉄地帯。そして この地には大和王国の中心にいて、軍事・鉄の生産を直接支配した物部氏の足跡が点々と残っていて、

歴史作家??? 関裕二氏は

**物部氏のルーツはこの地 初期大和王権成立にかかわった吉備は = 物部氏ではないか・・・**  
との説を唱えている。

「真金吹く 吉備」古代の大製鉄地帯の中 この地は古代の産鉄と深くかかわった土地である。



物部氏の出自は九州とも色々いわれているが、よく解っていない。

物部氏のルーツがわかれば、古代 日本誕生のドラマや鉄 精錬鍛冶の歴史が見えてくるかもしれない。

鉄の先進地 吉備のその真ん中に 物部氏の製鉄伝承地が点々と残り、しかも 物部氏の根拠地「石上神宮」の元宮の伝承がある。そして、物部 = 吉備 の説である。

物部氏の始祖「ニヒハヤギ」の降臨伝承のある生駒山の北麓 河内磐船。

数年前 その磐船にある5世～6紀の製鉄鍛冶工房遺跡をしらべていて、この地を支配した肩野物部氏と吉備 旭川中流に注ぎ込む誕生川流域が密接にかかわりがあることが、強く印象に残っていました。

この誕生川流域と山一つへだてた東側の山中に「石上布都魂神社」があり、また この神社は物部氏の根拠地 大和布留の石上神宮の元宮といわれる。そして、 吉備＝物部氏である。

まったく 根拠のないはなしでもなく、関氏の話はいつもながら、面白くて 魅かれる。

吉備＝物部氏であれば、古代製鉄の話も面白くなる。

そんな 「石上布都魂神社」の地とはどんなところなのか・・・興味深々。

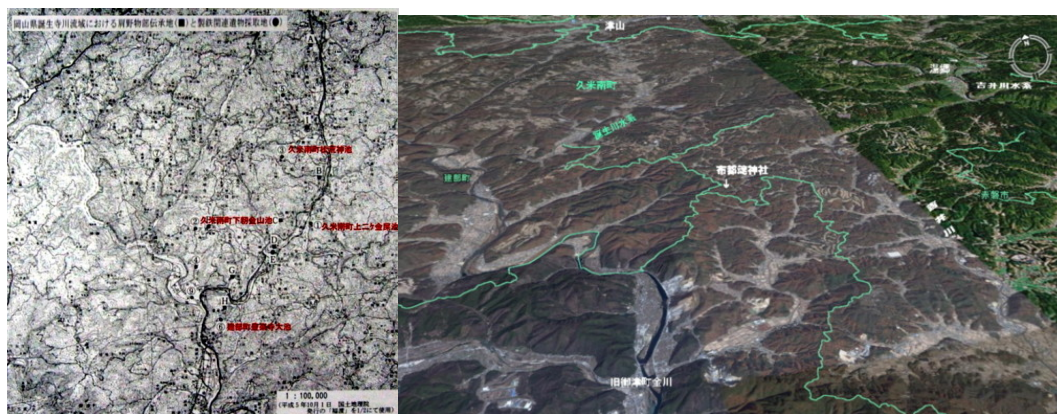
地図で確かめると この地は吉井川流域にあり、吉備の中心・古代吉備の製鉄地帯からははずれ、東過ぎるのも面白い。伝承のある誕生川とは山の壁がある

3月15日 ほかほか陽気の春 青春18キップ使って岡山へ

#### ● 北河内の古代の郷 真野物部氏の本拠地 交野界隈 walk

大和王権 を支えた鍛冶工房 森製鉄遺跡を訪ねて

<http://mutsu-nakanishi2.web.infoseek.co.jp/iron2/5iron11.pdf>



石上布都魂神社 岡山県赤磐市石上 備前一宮の説もある

由緒ある神社であるが、地図を調べるが、位置が良くわからない。

「石上」の地名も御津町と赤磐氏両方にあるし、岡山県東部を形成して 南北に流れる 旭川と吉井川の間丁度真ん中 どこを見ても山の中で、交通機関なし。もうひとつ 不思議なのは赤磐市属するこの地は吉井川水系 どちらかと言うと美作・吉備の端。

吉備の中心からすると遠いし、物部の本拠地だろうか・・・

よく解らず、赤磐市の市役所に電話して、行き方を聞くが、不思議そうに教えては貰ったのですが、あいまい。

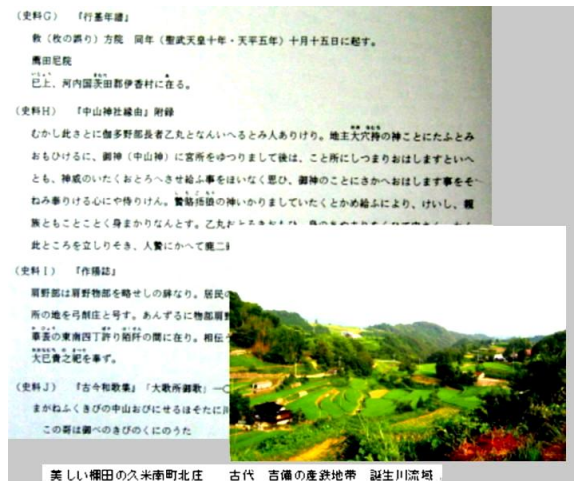
- 岡山駅と姫新線 林野駅の間を走っているバスに乗って、30分ほど 仁堀で降りて そこから 1時間ちょっと 歩くしかない・・・
- 誕生川沿いに走る津山線の駅から近いのでは・・・と聞いてみるがかいもく解らない。やっぱり、生活圏は吉井川流域

ちょっと 不思議というか ミステリアスな気持ちで 気分的には面白い。

1時間ぐらい歩くのは毎度のこと 何とかなるだろうと出かけました。

行って 場所の謎は解けたのですが、やっぱりすごい山の中でした。

誰もいない山中の岩山を登ると 大きな磐座がそのままどっしりと座っていて、山又山を見下ろしているのには やっぱり、この地が中心であったじだいがあったかも・・・と感じ、感激でした。





## 1. 旧吉井町仁堀 より石上へ 中国山地の山間を Walk



「日本書紀」には、素戔嗚尊が太蛇を斬った「蛇神窟之鏡」が「吉備神部」のものであるとの所伝が記載されており、その剣の納められたのが、「石上布都之魂神社」であると伝承されています。

延喜二年（二六四）、岡山藩主、池田綱政より社額二十石を拝領しました。

社は元、山上にあったのが、明治四十二年（一九〇〇）火災にあい、大正四年（一九一五）、山腹に社地を設けて建立したものです。

現在、旧社地に本宮と呼ばれる小社があり、巨石のある山頂に立地しています。

古来、大岩は、神が鎮座する磐座として信仰され、毎年五月三日に、磐座祭が行われています。

また、神社をとりまく山は、椎の原生林で、岡山県の自然保護地域に指定されています。特に、ツブラジイの純林は植生上貴重とされています。

江戶時代末期の歌人平賀元義は、「すさのその神の剣のをさまりてありてふ御山みればたふとし」と詠んだのでした。

石上布都魂神社は、赤磐市石上の大松山中腹に鎮座する式内社です。式内社とは、延長五年（九二七）に藤原の亮了した『延喜式』の『神明部』に記載されている神社のことで、国家からの奉幣（供物を捧げられる）をうけることを定められている格式の高い神社です。

旧吉井町域には、式内社備前国赤坂郡六座のうち、宗室神社・布勢神社・鴨神社・石上布都魂神社と、四社が鎮座しています。

石上布都魂神社は、祭神に素戔嗚尊を祀っています。

素戔嗚尊は、日本神話の中に出雲国で「八岐大蛇」を退治し、大蛇の中から「天叢雲劍」を見つけ、御稲田比売を守った神様として有名です。

3月15日朝 岡山からバスに乗るつもりで出かけたのですが、上郡でストップ。 多くの人が智頭急行のほうへ行く。 みんな青春18キップを持っているところを見るとご同輩。 聞いてみると すぐ 連絡があつて 佐用まで行って姫新線に乗り継ぎ、津山に一番スムーズに行けるという。

ならば 急遽変更で 姫新線湯郷・林田駅から岡山へ下るバスにする。

結局 林野駅で1時間ほど待ったので、時間的には短縮できなかったが、美作の東部を流れくんだり、吉井川に合流する吉野川沿いの国道374号線を走って約30分ほどで津山から、亜鉛・磁鉄鉱の鉱山の町棚原を通過、流れ下ってきた吉井川との合流点周匝。大河吉井川沿いに少し下ったところで、旧吉井町の中心仁堀に向かう。いよいよ 国道を離れ、山の中に入ってゆく。

このあたり以前 「ツチノコ」が発見されたと話題になったところで、まだ ツチノコの看板があつたりするが、山間の小さな集落が道沿いに続く。林野駅から40分ほどで仁堀中のバス停に降り立つ。

郵便局があるが、店もなく人通りもなし。周りは小高い山がほこほこ続く。

一緒にバスから降りたばあさんを逃すと人がいない。

地図を眺めながら、布津魂神社への道を教えてもらう。 行くのはええけど、1時間では行き着かんという。

とにかく 地図片手に前方に見える道路標識を頼りに左手 南に下りて 山間に入る。こぶの峠を越すと数軒の小さな集落があるといった山間を抜けてゆく。道がいいので気にはならないが、誰もおらず、布都魂神社の案内板もなく多少不安であるが、人を見つけては話しながら、山間を抜けてゆく。



北から南へ美作を流れ下る吉井川



周匝周辺 旧吉井町 仁堀中仁堀中



石上 布都神御魂神社への分岐



仁堀から石上への山間の道 2007. 3. 15.

よく整備された道路が集落をつなぐが、人ばかりでなく 車にも出会わない





石上 布都魂神社の位置と周辺の鳥瞰図 Google Earth より

1 時間弱ほど歩いた小さな集落の十字路に大きな道路標識があり、左「石上」の文字が見え その下に 布都神社への矢印の案内板がある。 地図にある天納の集落。やれやれ、「石上」までもうすぐである。

天理の「石上神宮」 がある「布留」とこの「石上布都魂神社」のある備前「石上」 この地名・名前の類似。 やっぱ「石上」の地名を現実に見て、物部氏の本拠地への期待が膨らむ。



石上布都魂神社の案内標識がでてきてほっとする天納集落周辺

2007. 3. 15.

## 2. 「石上」 石上布都魂神社

天納の集落を抜けて、丘と丘の間をぬうように進んで、丘を回り込んだところで、備前一宮 布都魂神社の石碑と駐車場が現れてびっくりする。

備前一宮の神社 石上神宮の元宮というので、神社周辺だけでも もっと華やかと思っていましたが、まったく、人気のない山中。 こんな今は人気のない山中が物部氏の本拠地だったのだろうか・・・とびっくりする。

でも ここは 旭川水系 吉井川水系に挟まれ、 両方をにらめる場所。物部氏が支配する製鉄集団だとすると格好の場所かもしれない。 ここが旧吉井町の石上。 山又山の中である。



石碑のところから丘と丘の間の道をまっすぐ西の神社へ向かう。

前方に小高い山が見え、この山裾の丘に布都魂神社の社殿があり、社殿からこの山の頂上に立派な磐座があり、昔社殿はこの磐座のある頂上にあったらしい。 また、この道の南側 丘に囲まれた狭い土地に数戸家が見え、石上の集落のようだ。 地図に「石上」の名前が付されているものの廻りになにも書き込みがなく、どんなところか・・・と興味津々でしたが、本当にひっそりした場所で、人っ子一人いない。 この山際のところには鳥居があり、そこから山裾を回って参道を山裾の丘にのぼるとそこ小さな広場になっていて まだ新しい社殿や社務所が建っていましたが、どうも無人のようでした。



布都魂神社への道 正面の山が布都魂神社の本宮 磐座のある神奈備山



布都魂神社への参道



布都魂神社 社殿

布都魂神社の祭神は、現在祭神はスサノヲノミコトとなっているが、明治までは、素戔鳴尊が八岐大蛇を斬った「布都御魂」の剣。 この剣は、古事記では、「十拳剣」、日本書紀には、「十握剣」「蛇の倉正」「韓鋤の剣」「天蠅斫」と記し、吉備の神部のもとに安置され、いまの石上にあると記されている。この石上は奈良県の石上神宮ではなく、この地の石上であるという。

また、「布都御魂」は、物を切断する「フツ」という音。「倉正」「韓鋤」は、半島からもたらされた剣。

「天蠅斫」は、蛇を斬った剣の意味とされている。 その後、崇神天皇の御代に、その剣は、大和国石上神宮へ移されたことになっている。

この剣で八岐大蛇を斬った時、その尾からでてきたのが「天叢雲剣(アメノムラクモノツルギ)」で後に草薙剣と名付けられ熱田神宮のご神体とされる。

これらの伝承を性格には解き明かせないが、朝鮮半島の製鉄鍛冶技術がこの吉備の石上の地に伝来し、この地で花開いていたことを示す伝承とも推察される。

また、これらの伝承の伝える「石上」そして「石上神宮」と物部氏の関係や 早くからこの吉備東部の製鉄地帯に物部氏がいたことなど考えると、大和「石上・石上神宮」が物部氏の本拠となる以前 この吉備東部の製鉄地帯に物部氏の本拠があり、渡来の製鉄技術をいち早く取り込み、その鉄の技術が物部氏の力の源泉であったと



考えられる。 後でおしえてもらったのですが、この糸都魂神社の宮司さんの姓は今も「物部」であると聞きました。

誰もいない境内のすぐ後ろのところから、本宮・磐座のある山への参道が続いている。なだらかな山に見えていましたが、林の中でよくは解らないが、ごつごつした岩と崖がある傾斜のきつい岩山で急な山道が頂上へ続いている。すこし登ったところで、南側が開けた展望が聞く場所に出て、岡山方面 山又山の景色が見える。鳥居があり、頂上へのきつい石階段を登ると本宮 その後ろに 柵で囲まれた禁則地として、立派な磐座がある。おそらく、この頂上から四方の山が見渡せたのだろう。明るい森ではあるが、木々に囲まれて 山の頂上に磐座。 やっぱり何か 神秘的。 神話の世界のイメージが広がってゆく。

スサノウのヤマタノオロチ退治の場面はどんなだったろう。

物部氏がいたというところはこの山裾 どの辺りだったのだろうか・・・

そのたたら場はどんなだったのだろうか もう製鉄技術を習得していただろうか・・・

ここにも 古代たたら場の痕跡があるのだろうか・・・

等々



山上の本宮へ向かう参道 2007. 3. 15.

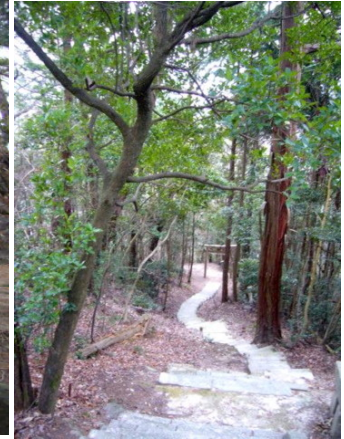


本宮すぐ下の展望所から南 岡山方面の眺望



山上の本宮と磐座 2007. 3. 15.





布都魂神社 本宮と磐座 2007. 3. 15.

### 3. 石上布都魂神社から 南へ 旭川水系の御津町金山へ



小さな丘が両側に連なる狭い谷間の道を縫いながら南へ 御津金山へ向かう 2007. 3. 15.

神社の山から下りながらも、まだじっくりこない。

「なぜ この地に 製鉄集団の神を祭る物部が拠点構えたのだろうか・・・」

この地で製鉄をしていたことが考えられるにしても 」

この布都魂神社のすぐ西側の尾根を越えれば、古備の中央部 出雲街道が通る旭川・誕生川水系の川筋へ出られるのですが、道はどうもなさそうである。この西北の誕生川には点々と物部氏の痕跡・古いたたらの痕跡があり、イメージ的にはなんとなく越えられそうに思いますが、今はこの西の尾根がきつい壁になっている。

地図で調べるとこの西側では旭川が狭い谷を蛇行して流れ、平地が狭く、まっすぐ西へ出る必要もないのだろう。

旭川水系では、少し南北に出て、平地のある北の建部 南の御津・金山へ出るか、東の吉井川水系の町へ出るか・・・である。いずれも古備の古い製鉄地帯である。 どちらか言うと旭川水系の道筋に近いのに、吉井川水系で、それも遠く吉井川から離れた場所に神社があるのか、どうも腑に落ちない。



歩いてきた北からの道はずっと山間を抜けてきた道で、石上で西の旭川水系に簡単に出られないとすると、しいて、北からの道とこの石上を結ぶものもない。だとすると やっぱり 南に旭川水系の製鉄地帯・吉備の中央部とつなぐ何かがあるのか・・・バスも通っていないし、南へ帰る方がどうも遠そうであるが、南へ下って、御津・金山まで、歩くことにする。

歩き出して 15分ほどで、上記の疑問は一気に解消。

小さな丘が両側に連なる狭い谷間の道を縫いながら15分も歩かぬうちに、南へ八の字に大きく広がる盆地の端に出た。北から来たので、随分 山の中と思っていたのですが、段々畑が広がるかなり広い盆地が南に伸びている。そして、その南西の端で旭川が流れる御津金山につながっている。

南から来ても山中には違いないが、耕地の広がる盆地の北側の神奈備山が布都魂神社の地 石上

そして この盆地が製鉄集団の本拠だとすると布都魂神社の位置が理解できる。

そんな南側の盆地の中へ降りていく峠道を下ったところに「布都神社 社務所 宮司宅」と書いた案内板の大きな屋敷があり、また、この地が御津町「石上」との標識もある。

神社のある地が吉井町「石上」 社務所が南に広がる盆地の端 御津町石上にある。

やっぱり、もともと「石上」は御津・吉井の両方に広がる地で、この盆地側がむしろ石上の中心集落なのだろう。

ずっと抱いてきた疑問がやっと解消である。



御津町石上の集落に入って 北側の山裾を眺める 2007. 3. 15.



旧御津町側の石の上 旧吉井町側から峠を越えて すぐ傍らに  
布都魂神社の宮司さんの屋敷 2007. 3. 15.

御津町石上から盆地の中をさらに下って盆地の中央で東側の赤磐市赤坂から西の御津金山への広い道とTクロス。このTクロスを西に歩くと金山。石上からやっぱり 2時間ほどの周囲をきょろきょろ眺めながらの長いwalk でした。 正直 旭川の土手にでるとほっとしましたが・・・。



旭川 旧御津町 金山周辺



たたら遺跡そのものを見に行っただけではありませんが、古代製鉄の先進地吉備の製鉄地帯の真っ只中にいるとの思いがひしひし。

しばし、旭川の流れを見ながら 吉備の製鉄地帯の山並みに見入っていました。

物部氏がここで本当にどんな痕跡を残しているのか・・・

本当に 物部氏がここを本拠として 鉄の技術をバックに大和へ出て行ったのか

確かなことはまだ 何も知りませんが、 山又山の中の布都魂神社と森につつまれた山上の磐座の神秘的な神話のイメージに浸れて 満足でした。

2007.3.15.夕

御津金山 旭川にかかる大橋から北野山々と川の流れを眺めながら

Mutsu Nakanishi

ついでながら 津山線御津金山駅に行くと津山線が不通。まったく知りませんでした。金山駅の南 旭川沿いの線路に土砂崩れがあって、岡山までバスによる代替運行の真っ最中。 久しぶりに代替バスにも乗りました。

出かけて見ると本当何が起こるかわかりませんが、何でも見てやろう 風来坊です。

物部氏の古い本拠地と考えられる 布都魂神社のある吉備「石上」は  
山又山のどんつき まるで 隠れ里  
山の中にひっそりと石上布都魂神社があり、  
神社の背後の岩山の頂上部に立派な磐座がありました

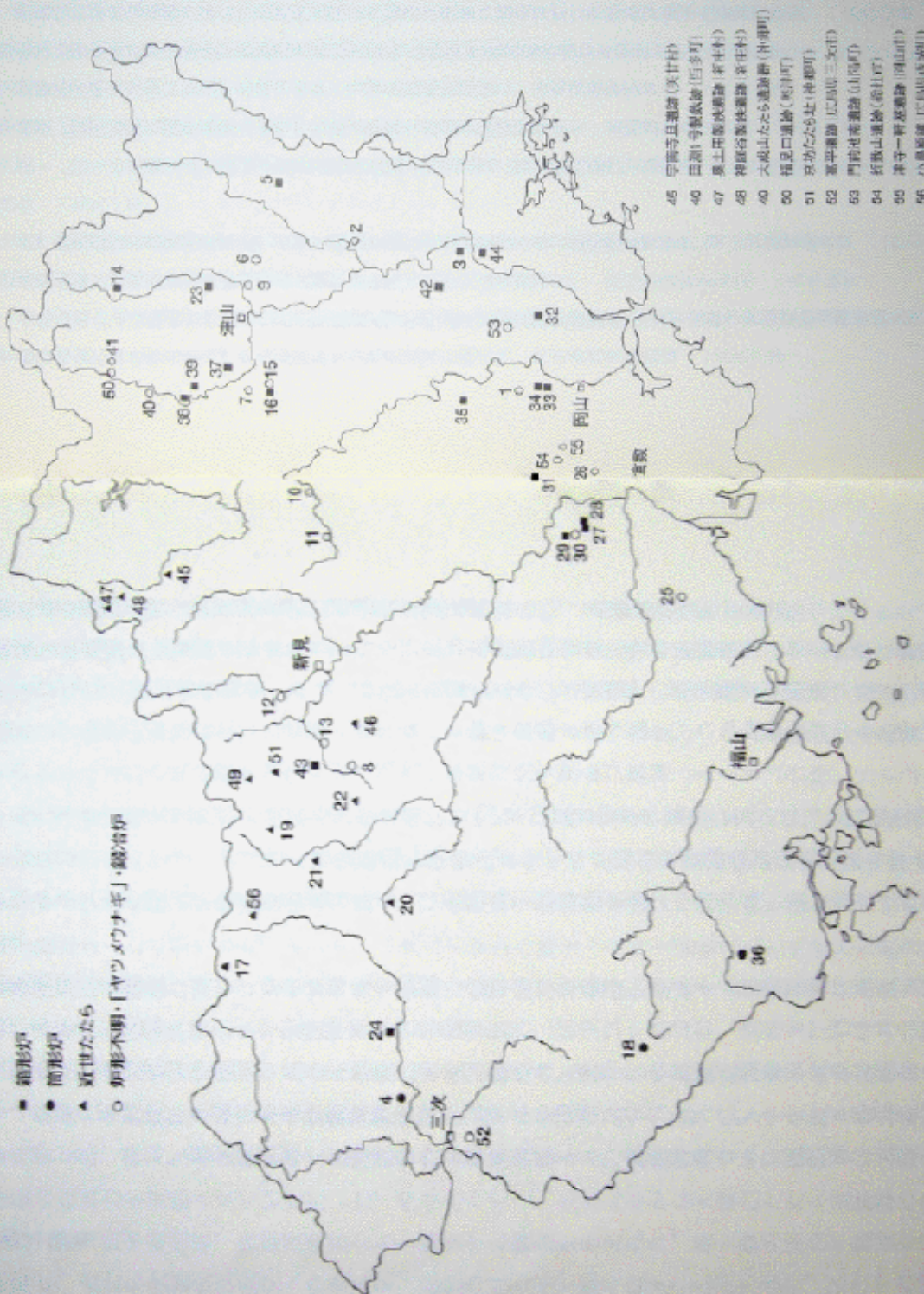


物部氏の古い本拠地と考えられる 布都魂神社のある吉備「石上」 2007.3.15.



吉備地域製鉄関連遺跡分布図 光永真一著「たたら製鉄」より

- 箱形炉
- 筒形炉
- ▲ 近世なたら
- 炉形不明・「ヤツメウナギ」・鍛冶炉



- 1 榎子「カンナ」遺跡(岡山県)
- 2 榎子「カンナ」遺跡(岡山県)
- 3 石生天香遺跡(岡山県)
- 4 菅定雄天香遺跡(岡山県)
- 5 高本遺跡(岡山県)
- 6 坪遺跡(岡山県)
- 7 畑家遺跡(岡山県)
- 8 二野遺跡(岡山県)
- 9 天神谷遺跡(岡山県)
- 10 野内遺跡(岡山県)
- 11 備中平遺跡(岡山県)
- 12 岩倉遺跡(岡山県)
- 13 野田遺跡(岡山県)
- 14 ケナゴ遺跡(岡山県)
- 15 岡山遺跡(岡山県)
- 16 大瀬遺跡(岡山県)
- 17 大の原遺跡(岡山県)
- 18 カナゴ遺跡(岡山県)
- 19 小豆谷遺跡(岡山県)
- 20 野田遺跡(岡山県)
- 21 榎子遺跡(岡山県)
- 22 榎子遺跡(岡山県)
- 23 岡山遺跡(岡山県)
- 24 戸の丸山遺跡(岡山県)
- 25 和田遺跡(岡山県)
- 26 菅生小学校遺跡(岡山県)
- 27 西岡地蔵遺跡(岡山県)
- 28 市橋遺跡(岡山県)
- 29 山田遺跡(岡山県)
- 30 砂子遺跡(岡山県)
- 31 長坂遺跡(岡山県)
- 32 西岡山方遺跡(岡山県)
- 33 榎子遺跡(岡山県)
- 34 西岡山方遺跡(岡山県)
- 35 みその遺跡(岡山県)
- 36 小史遺跡(岡山県)
- 37 丸山遺跡(岡山県)
- 38 久田遺跡(岡山県)
- 39 コンバヤ遺跡(岡山県)
- 40 高下遺跡(岡山県)
- 41 大津遺跡(岡山県)
- 42 八ヶ谷遺跡(岡山県)
- 43 上神谷遺跡(岡山県)
- 44 榎子遺跡(岡山県)
- 45 早瀬寺遺跡(岡山県)
- 46 田淵寺遺跡(岡山県)
- 47 桑土田遺跡(岡山県)
- 48 神谷谷遺跡(岡山県)
- 49 六蔵山遺跡(岡山県)
- 50 福足口遺跡(岡山県)
- 51 京方遺跡(岡山県)
- 52 高下遺跡(岡山県)
- 53 門前寺遺跡(岡山県)
- 54 新敷山遺跡(岡山県)
- 55 津守一軒遺跡(岡山県)
- 56 小島新敷(岡山県)